

## 通常総会報告

社団法人 全日本広告連盟  
専務理事 三浦 浩



本日は第58回全広連静岡大会にご参加をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

只今から、昨日行われました第58回全広連通常総会のご報告をさせていただきます。まず、平成21年度に行われました主な事業について、ご報告いたします。第57回全広連長野大会を5月13日から15日までの3日間、長野市で開催いたしました。全国から約1000名の広告関係者が参集し、盛大に行われました。

次に第3回「全広連鈴木三郎助大賞」は、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンを企画・実施した仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進協議会に、また、第3回「全広連鈴木三郎助大賞選考委員会特別賞」を、「名づけて『はかた博物館』」を企画・実施した㈱春潮社に、第3回「全広連鈴木三郎助地域賞」は、最優秀賞を㈱東奥日報社に、優秀賞を愛知の大洋薬品工業㈱と鹿児島の大口酒造㈱にそれぞれ贈賞いたしました。

続いて、第20回全広連夏期広告大学は、吉田秀雄記念事業財団様のご協賛により、7月に大阪、名古屋、山形、徳島、高松、静岡の6地区で開催されました。6地区的参加者数は延べ741名を数えました。また、全広連主催の吉田秀雄記念事業財団様からご協賛いただいた、㈱電通様、㈱博報堂様、㈱アツーディ・ケイ様三社の女性マーケティング・プランナーと著名広告クリエイターによる全広連・秋のシンポジウム「第3回三社合同セッション」は、山形、静岡、大阪、広島、鹿児島の5地区で開催いたします。

全広連の長年にわたる中心的活動であります「広告課税反対要望書」については、本年も広告・報道関係8団体として、情報収集につとめるとともに、意見交換しながら対応を進めていきたいと思います。

顕彰活動としては、第4回全広連鈴木三郎助大賞、同じく第4回全広連鈴木三郎助地域賞は、本大会の席上において贈賞し、会場にその受賞作品を展示しております。また、恒例の三社合同セッションをはじめ、全広連主催事業の提供により各地広告協会の活性化をサポートして参ります。このほか、定期刊行物の発行としまして、「月刊全広連」と「全広連名鑑」を継続刊行します。国際関係活動については、平成23年3月タイのバタヤで開催予定の「第13回アジア太平洋広告祭」への参加研修ツアーを企画・実施します。

「広告課税に対する反対要望書」への対応ですが、本年は衆議院選挙により民主党への政権移行に伴いまして、広告・報道関係8団体連絡会を開き今後の対応を検討した結果、民主党に対してはゆっくり情勢を見極めた方が良いという結論に達し、最終的に提出には至りませんでした。

また、全広連機関誌「月刊全広連」を毎月発行、全広連加盟37広告協会会員名簿であります「全広連名鑑」平成21年版を刊行いたしました。

さらに、諸官庁ならびに諸広告関係団体の事業に参加、後援、協賛

いたしました。国際関係活動では、平成22年3月に、タイ・バタヤで開催の、第13回アジア太平洋広告祭へ参加する毎年恒例の全広連海外研修ツアーを企画しましたが、タイ国内の政情不安により主催者側から広告祭中止通知をいただき、ツアーを見送りました。

「平成21年度の収支決算」につきましては、当期の収支差額はマイナス509万5,344円となりまして、次期繰越収支差額は1,306万484円となりました。

「平成22年度事業計画」につきましては、まず本日から21日までの3日間、静岡県広告協会主管によります第58回全広連静岡大会を開催。次に、吉田秀雄記念事業財団様の協賛事業であります第21回全広連夏期広告大学は、今年度も7月に甲府市、盛岡市、岡山市、札幌市の4地区で開催いたします。また、㈱電通様、㈱博報堂様、㈱アツーディ・ケイ様三社の女性マーケティング・プランナーと著名広告クリエイターによる全広連・秋のシンポジウム「第3回三社合同セッション」は、山形、静岡、大阪、広島、鹿児島の5地区で開催いたします。

全広連の長年にわたる中心的活動であります「広告課税反対要望書」については、本年も広告・報道関係8団体として、情報収集につとめるとともに、意見交換しながら対応を進めていきたいと思います。

顕彰活動としては、第4回全広連鈴木三郎助大賞、同じく第4回全広連鈴木三郎助地域賞は、本大会の席上において贈賞し、会場にその受賞作品を展示しております。また、恒例の三社合同セッションをはじめ、全広連主催事業の提供により各地広告協会の活性化をサポートして参ります。このほか、定期刊行物の発行としまして、「月刊全広連」と「全広連名鑑」を継続刊行します。国際関係活動については、平成23年3月タイのバタヤで開催予定の「第13回アジア太平洋広告祭」への参加研修ツアーを企画・実施します。

「平成22年度の収支予算」につきましては、当期収入の計で9,408万円、当期支出計で9,904万円、これによりまして当期収支差額はマイナス496万円となります。前期繰越収支差額1,306万484円を加えた次期繰越収支差額は810万484円という大変厳しい予算編成となりました。以上が平成22年度の事業計画および収支予算でございます。

なお、平成22年度の全広連の活動目標は、昨年制定されました「広告の元気は、ニッポンの元気。」を本年も継続使用いたします。

以上が昨日行われて承認されました通常総会の報告でございます。

## 第4回全広連鈴木三郎助大賞 受賞の言葉

古典の日推進委員会  
ゼネラルプロデューサー

**山本 壮太様**

「古典をいだき 古典に抱かれて」  
『古典の日、キャンペーン』



古典の日推進委員会の山本でございます。本日は全広連静岡大会の盛大なる開催、本当におめでとうございます。また、身に余るような鈴木三郎助大賞をいただき、大変光栄に存じます。

古典の日推進委員会は、その前身となる「源氏物語千年紀委員会」が設けた11月1日の「古典の日」を定着させるために、「古典をいだき 古典に抱かれて」のテーマのもと、さまざまなキャンペーンを展開いたしました。

キャンペーンの内容につきましては、メインイベント「古典の日推進フォーラム」をはじめ、「朗読コンテスト」、「街かど古典カフェ」、「歴史ウォーク」などを重層的に展開しました。また、京都新聞紙上では、昨年の10月から今年3月まで、全25回シリーズで「奥の細道」の原文を解説付きで紹介。さらに、経済、文化、宗教、学生など、さまざまなジャンルの人たちを取材した「古典と私」のほか、古典文学ゆかりの地元スポットを紹介する「文学ウォーク」を掲載するなど、古典文学の香りを保ちながら、人々が広く古典を親しむ機会を提供し、11月1日の「古典の日」の周知に務めました。

ここで、テーマとなっております「古典をいだき 古典に抱かれて」の意味合いにつきまして、簡単にご紹介させていただきます。

これは源氏物語の研究者で、東京大学名誉教授の秋山慶先生のお言葉を拝借いたしました。「人間は誰しも心の中に古典を抱いている訳ですが、もっと広く言うと、人類全体が人類の叡智であります古典にやわらかく抱かれているのですよ」というニュアンスです。



このテーマのもとに、今後とも私どもは11月1日を「古典の日」ということで運動キャンペーンを推進して行きたいと思っております。11月1日という日は、「源氏物語」が紫式部の日記の中に初めて登場する日付が、1008年11月1日であることを記念して、この日をこれからも古典に親しみきっかけの日にしようということでございます。

先ほどの川勝静岡県知事のお話ですと、2月23日を「富士山の日」とお決めになられたそうですが、併せて11月1日を「古典の日」とご記憶願って、今後ともご声援をいただきたいと思います。

最後になりましたが、このキャンペーンの推進にあたりましては、京都の日商社様、京都新聞社様、京都広告協会のみなさまの多大なるご努力、ご協力をいただきましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 第4回 全広連鈴木三郎助大賞

受賞者:古典の日推進委員会  
受賞作:「古典をいだき 古典に抱かれて」

### 第4回 全広連鈴木三郎助大賞選考委員会特別賞

受賞者:株式会社中国新聞社、株式会社中国博報堂  
受賞作:『緑の伝言プロジェクト』

### 第4回 全広連鈴木三郎助大賞地域賞

〈最優秀賞〉 受賞者:「山陽新聞創刊130周年特集」協賛企業各社  
受賞作:別刷特集「地方人宣言」(新聞広告)  
〈優秀賞〉 受賞者:「越中とやま夢かるた」協賛企業各社  
受賞作:越中とやま夢かるた(新聞広告)  
〈優秀賞〉 受賞者:静岡放送株式会社  
受賞作:SBSステーションキャンペーン「おやつ」篇、  
「ボディビル」篇、「放課後」篇(テレビCM)



## 次回開催地挨拶

岡山大会会長  
(山陽新聞社 代表取締役社長)  
**越宗 孝昌様**



来年度の全広連岡山大会を主管いたします、岡山広告協会の越宗でございます。

まずは、第58回全日本広告連盟静岡大会が、全国各地から大勢の方がご参加されまして、盛大に開催されましたことを心からお慶びを申し上げます。

来年5月、私ども岡山広告協会が主管いたしまして、第59回全日本広告連盟岡山大会を開催いたします。振り返りますと、岡山での大会開催は昭和47年の第20回大会、昭和63年の第36回大会に次ぎ3度目となります。これまでの大会以上に、岡山らしい特色のある、実りのある大会にしたいと、会員一同、鋭意準備を進めているところでございます。

先ほどからお話をありましたように、広告界を取り巻く環境はなかなか厳しい面がございます。国内の政治が、経済、社会も、同じような重苦しい閉塞感に包まれております。海外に目を向けましても、まだまだ世界同時不況の痛手から立ち直れおらず、もう少し時間を要するのではないかと思います。

そんな中で来年開催いたします岡山大会ですが、テーマは、「ニッポンを元気にする、ふるさとパワー! 晴れの国『岡山』から。」といたしました。情報の発信、コミュニケーションのあり方が根本的に変わりつつあるいま、地方からの情報発信がさまざまなムーブメントを生み始めていると思います。地域、地方から情報を発信することが日本の

活力、さらには世界の活力につながるのではないか、そんな時代になってほしいという願いも込めまして、このテーマを設定させていただきました。

それから、「晴れの国」というのは、こちらの静岡県もまさにそうですが、温暖で日照時間が長い、そういう気候が岡山の代名詞であるということです。

中国と四国を結ぶ交通のクロスポイントとして、交通の便の良い岡山県ですが、北は中国山地から南は瀬戸内海と、大変自然に恵まれております。そして古来の吉備の国以来の文化と伝統を今日まで育んできています。自然、歴史、文化というものは、ご当地静岡県も大変すばらしいものがございますし、そして、先ほど知事がお話をされたように食が大変豊かでありますけれども、岡山も瀬戸内の海の幸、あるいは山の幸、さらに果物と、食の自慢には事欠きません。

そういう岡山のすべてを集めまして、来年は皆さまを歓迎申し上げたいと思っております。今日は、岡山広告協会からもこの静岡大会において、あらゆるもの学ばせていただこう、吸収させていただこう、持ち帰ろうということで、50名を超える会員が張り切って参加させていただいております。

どうぞ、皆さま来年は岡山へお越しください。本当に心から皆さまをお待ち申し上げております。ありがとうございます。

## 記念講演

花園大学 教授  
**芳澤 勝弘氏**

### 「駿河の巨星 白隠のこころ」

1945年長野県生まれ。同志社大学経済学部卒。禪文化研究所主幹を経て、現在、花園大学国際禪学研究所教授。白隠禪師研究の第一人者として知られ、国内外で白隠の魅力を発信している。「白隠禪師の不思議な世界」、「白隠禪画墨蹟」全3巻など著書多数。



得て…」とあります。老胡(達磨)の真面目(本当の姿)を描いたというのです。富士山は「聖諦(しようたい)」つまり仏性的象徴であり、法(達磨)を表しており、一方の大名列行が「俗諦」として現実の社会を表し、二つを対照的に描いています。絵には164人が描かれていますが、2人だけ富士山を眺めています。白隠はこうして「仮性を見なさい」、「見性成仮しなさい」というメッセージを伝えているのです。

とはいっても、我々の生活の中で俗諦が要らないかというと、そうではありません。我々は政治経済に浸かって生活しているので、聖諦と俗諦は全然別物ではないのです。白隠は、聖諦と俗諦の二つを合わせた絵の全体が達磨の本当の姿であるということを1枚の絵で表したのです。

現代はもう大名列行はありませんが、新幹線に乗って毎日多くの人が東へ西へと走り回っています。それは政治経済、現実の生活を実現するための活動です。そして、その彼方は、昔と変わらず美しい富士山がそびえています。もし、白隠が現代に生きていたら、「富士新幹線図」を描いていたのではないかと思います。

さて、中央に真っ白い富士山、手前に大名列行を描いた「富士大名列行図」という絵があります。単なる風景画と解釈されてきましたが、私はそうではないと考えています。当時の参勤交代制度は、大名列行に莫大な費用がかかり、農民一揆の原因になっていました。白隠は大いに怒り、「邊鄙以知吾(へびいちご)」という本を著して、参勤交代がいかにばかばかしい制度であるかと批判しました。幕藩体制の根本を批判するために、この本は禁書にされてしまいました。禪層が権力批判することはまず考えられなかった時代ですが、白隠は「ダメなものはダメ」として自分の考えを主張したのであります。

この絵には、「老胡(ろうこ)の真面目(しんめんもく)」を写し

